

政策評価調書（個別票①-1）

【政策ごとの予算額等】

政策名	科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡		評価方式	総合・実績・事業	番号	20
歳出予算額（千円）	20年度	21年度	22年度	23年度要求額		
（ 当 初 ）	747,170	655,575	600,456	588,966		
（ 補 正 後 ）	740,437	655,233				
前年度繰越額（千円）						
予備費使用額（千円）						
流用等増△減額（千円）						
歳出予算現額（千円）	740,437	655,233				
	<0>	<0>				
支出済歳出額（千円）	628,248	524,021				
翌年度繰越額（千円）						
不用額（千円）	112,189	131,212				
	<0>	<0>				
達成すべき目標及び目標の達成度合いの測定方法	個別票②に記載					
政策評価結果を受けて改善すべき点	国際学術団体への加入のあり方について検討を行ったところ、環境問題科学委員会（SCOPE）及び国際医学団体協議会（CIOMS）から脱退することにより、平成23年度予算要求額の削減を行った。					
評価結果の予算要求等への反映状況	<p>日本学術会議では、科学の向上発展を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映・浸透させるため、科学に関する重要事項について、学術的・中立的な観点から積極的に審議を行い、政府、社会等に対する提言等を発出しているところであるが、今後、行政、産業及び国民生活へ科学を一層反映、浸透させていくため、日本学術会議における審議活動をより活発化させることが求められている。このため、若手研究者自らが独自に意見を表明し、各種の活動を展開する拠点として、新たに「若手科学者委員会」を設置することとし、同委員会が政策提言活動等を行うための予算を要求するとともに、審議活動を支える事務局体制を強化するべく、定員の要求を行う。</p> <p>さらに、科学者と国民との双方向のやり取りをより一層充実させるため、日本学術会議主催公開講演会を発展的に改組し、「科学・技術コミュニケーションフォーラム」（仮称）を開催するための予算要求を行う。</p>					

政策評価調書（個別票①-2）

【政策に含まれる事項の整理】

政策名	科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡				番号	20		(千円)		
	予 算 科 目							政策評価結果等 による見直し額		
	整理番号	会計	組織/勘定	項	事項	22年度 当初予算額	23年度 要求額			
対応表において● となっているもの	A	1	一般	日本学術会議	日本学術会議	科学に関する重要事項の審議等に必要な経費	600,456	588,966	-35,952	
	A	2								
	A	3								
	A	4								
	小計						600,456 の内数	588,966 の内数	-35,952	
対応表において◆ となっているもの	B	1								
	B	2								
	B	3								
	B	4								
	小計						の内数	の内数		
対応表において○ となっているもの	C	1					<	>	<	>
	C	2					<	>	<	>
	C	3					<	>	<	>
	C	4					<	>	<	>
	小計						の内数	の内数		
対応表において◇ となっているもの	D	1					<	>	<	>
	D	2					<	>	<	>
	D	3					<	>	<	>
	D	4					<	>	<	>
	小計						の内数	の内数		
合計						600,456 の内数	588,966 の内数	-35,952		

政策評価調書（個別票①-3）

【見直しの内訳・具体的な反映内容】

政策名	科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡					番号	20		
事務事業名	整理番号		予算額（千円）			見直し額（A） （B）+（C）-重複	うち政策評価結果の反映による見直し額（B）	うち執行状況の反映による見直し額（C）	政策評価結果又は執行状況の要求への反映内容
			22年度当初予算額	23年度要求額	増減				
外部評価委員会経費	A	1	236	186	△ 50	△ 50		△ 50	執行状況を踏まえ、会議出席旅費について積算を見直したことにより削減を行った（△50千円）。
代表派遣	A	1	40,583	23,728	△ 16,855	△ 16,855		△ 16,855	執行状況を踏まえ、外国旅費について、不用反映の観点から、積算を見直したことによる削減を行った（21年度不用額18,321千円）。
国内開催	A	1	74,442	60,391	△ 14,051	△ 11,635		△ 11,635	執行状況を踏まえ、国際学術会議開催庁費について、不用反映の観点から、積算を精査したことによる削減を行った（21年度国際学術会議開催庁費不用額21,933千円）。
国際分担金	A	1	102,339	98,913	△ 3,426	△ 2,421	△ 2,421		政策評価結果を踏まえ、国際学術団体の加入のあり方について検討を行ったところ、環境問題科学委員会（SCOPE）及び国際医学団体協議会（GIOMS）から脱退することにより削減を行った。
特別代表派遣	A	1	7,182	4,914	△ 2,268	△ 770		△ 770	執行状況を踏まえ、外国旅費について、不用反映の観点から、積算を見直したことによる削減を行った（21年度外国旅費不用額1,184千円）。
アジア学術会議	A	1	26,077	24,460	△ 1,617	△ 3,161		△ 3,161	執行状況を踏まえ、外国人招へい旅費について、不用反映の観点から、積算を見直したことによる削減を行った（21年度外国人招へい旅費不用額1,816千円）。
国際シンポジウム	A	1	32,021	26,709	△ 5,312	△ 5,281		△ 5,281	執行状況を踏まえ、外国人招へい旅費及び国際学術会議開催庁費について、不用反映の観点から、積算を見直したことによる削減を行った（21年度外国人招へい旅費不用額11,029千円及び21年度国際学術会議開催庁費不用額1,981千円）。
科学・技術コミュニケーションフォーラム	A	1	936	7,427	6,491	6,491	6,491		政策評価結果を踏まえ、従来の公開講演会を発展的に改組し、「科学・技術コミュニケーションフォーラム」（仮称）を開催することとした。
地方活動の充実強化経費	A	1	14,596	12,326	△ 2,270	△ 2,270		△ 2,270	執行状況等を踏まえ、地域科学者との意見交換会と地区会議事業（学術講演会）を統合し、地区会議の活動（地域科学者との意見交換会等）として、予算の減額要求を行った。
合計			298,412	259,054	△ 39,358	△ 35,952	4,070	△ 40,022	

政策評価調査(個別票②) (政策評価書要旨)

評価実施時期:平成22年8月

担当部局名:日本学術会議事務局

<p>政策名</p>	<p>科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡</p>		<p>番号</p>	<p>20</p>																																																																																													
<p>政策の概要</p>	<p>日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として設置された特別の機関であり、当該設置目的の実現に向け、①政府・社会等に対する提言等、②各国アカデミーとの交流等の国際的な活動、③科学の役割についての普及・啓発及び④科学者間ネットワークの構築の4つの施策を行っている。</p>																																																																																																
<p>政策に関する評価結果の概要と達成すべき目標等</p>	<p>【評価結果の概要】</p> <p>(総合的評価) すべての施策で目標を十分に達成しており、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させる上で大きな役割を果たしている。なお、「科学者間ネットワークの構築」の中の「学術団体をめぐる課題についての審議等」については、目標値である「報告書のとりまとめ」は行わなかったものの、学術団体をめぐる課題について審議した結果に基づきシンポジウムを開催し、学協会や研究者へ幅広く周知することで一定の成果をあげている。</p> <p>(必要性) 日本学術会議法において定められている日本学術会議の設置目的(科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を浸透させる)を実現させていくためには、各学術分野の第一人者で構成される日本学術会議において、更に活発に政府、社会等に対する提言等を行うとともに、我が国を代表するアカデミーとしての国際的学術交流の積極的展開、社会との双方向コミュニケーションの充実を図っていくことが求められている。</p> <p>(効率性) すべての施策に共通して、日本学術会議のホームページへの掲載やメール送信による効率的な情報の周知、他機関との連携による効率的な実施等、効率的に施策を実施した。</p> <p>(有効性) 「政府・社会等に対する提言等」については、社会が抱える特に重要な課題等について審議を行った結果に基づき、政策提言等を行っており、当該政策提言等を通じ科学の向上発達に貢献した。「各国アカデミーとの交流等の国際的な活動」については、G8各国アカデミーとの共同声明を各国首脳あてに発出し、アジア学術会議の開催等を通じ、科学者の国際協力体制を構築することができた。「科学の役割についての普及・啓発」については、学術会議主催公開講演会等を開催することで、国民の科学に対する理解を増進することができた。「科学者間ネットワークの構築」については、学術団体をめぐる課題についての審議や、各地区における科学者懇談会の開催等により、科学者間のネットワーク構築に貢献した。</p> <p>(反映の方向性) 行政、産業及び国民生活へ科学を一層反映、浸透させていくため、今後とも各施策を着実に実施していくとともに、更に効果的に各施策が実施できるよう、取組を進める必要がある。 特に、若手科学者によるアカデミー活動を奨励する世界的な動きに対応し、若手科学者の自らの声を集約できる場として若手科学者委員会の設置や、科学・技術コミュニケーション活動の推進の観点から、科学者と国民との双方向のやり取りをより一層充実させるためのフォーラム等の開催を検討する。</p> <p>【達成すべき目標、測定指標、目標期間、測定結果 等】</p> <table border="1" data-bbox="427 1272 1372 1861"> <thead> <tr> <th rowspan="2">達成目標</th> <th rowspan="2">指標名</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">基準値(年度)</th> <th colspan="3">実績値</th> <th rowspan="2">目標値(年度)</th> <th rowspan="2">達成目標・指標の設定根拠・考え方</th> </tr> <tr> <th>19年度</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13"> ・科学に関する重要事項を審議し、その実現を図る。 ・科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させる。 </td> <td>専門的かつ信頼性のある見解の提示・助言等を通じた政府・関係機関との連携</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>実施 21年度</td> <td>各期(3年間)の提言等の発出状況や委員会の例年の審議の状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>各国アカデミーとの連携等 ・G8学術会議共同声明の発出</td> <td>回</td> <td>—</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回 21年度</td> <td>これまでの発出状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>各国アカデミーとの連携等 ・アジア学術会議の開催</td> <td>回</td> <td>—</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回 21年度</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>各国アカデミーとの連携等 ・二国間学術交流</td> <td></td> <td>—</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>実施 21年度</td> <td>これまでの交流状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>国際学術団体等への貢献 ・ICSU(国際学術会議)、インターアカデミーパネル等への対応</td> <td>回</td> <td>—</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回 21年度</td> <td>これまでの対応状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>国際学術団体等への貢献 ・その他国際学術団体等への代表派遣等</td> <td></td> <td>—</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>実施 21年度</td> <td>これまでの代表派遣等の状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>共同主催国際会議の開催</td> <td>回</td> <td>—</td> <td>7回</td> <td>7回</td> <td>7回 21年度</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>日本学術会議主催公開講演会等の開催 ・公開講演会等の開催件数</td> <td>回</td> <td>—</td> <td>実施</td> <td>5回</td> <td>4回 21年度</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>学術団体をめぐる課題についての審議等</td> <td></td> <td>—</td> <td>報告書の取りまとめ</td> <td>シンポジウムの開催</td> <td>報告書の取りまとめ 21年度</td> <td>審議の結果等を外部に報告する(報告書等を作成)することを目標値として設定した。</td> </tr> <tr> <td>地区会議の開催</td> <td></td> <td>—</td> <td>実施</td> <td>実施</td> <td>実施 21年度</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> <tr> <td>地区会議公開講演会の開催 ・地区会議公開講演会の開催件数</td> <td>回</td> <td>—</td> <td>実施</td> <td>9回</td> <td>7回 21年度</td> <td>これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。</td> </tr> </tbody> </table>						達成目標	指標名	単位	基準値(年度)	実績値			目標値(年度)	達成目標・指標の設定根拠・考え方	19年度	20年度	21年度	・科学に関する重要事項を審議し、その実現を図る。 ・科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させる。	専門的かつ信頼性のある見解の提示・助言等を通じた政府・関係機関との連携			—	実施	実施	実施 21年度	各期(3年間)の提言等の発出状況や委員会の例年の審議の状況を勘案して目標値を設定した。	各国アカデミーとの連携等 ・G8学術会議共同声明の発出	回	—	1回	1回	1回 21年度	これまでの発出状況を勘案して目標値を設定した。	各国アカデミーとの連携等 ・アジア学術会議の開催	回	—	1回	1回	1回 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。	各国アカデミーとの連携等 ・二国間学術交流		—	実施	実施	実施 21年度	これまでの交流状況を勘案して目標値を設定した。	国際学術団体等への貢献 ・ICSU(国際学術会議)、インターアカデミーパネル等への対応	回	—	2回	2回	2回 21年度	これまでの対応状況を勘案して目標値を設定した。	国際学術団体等への貢献 ・その他国際学術団体等への代表派遣等		—	実施	実施	実施 21年度	これまでの代表派遣等の状況を勘案して目標値を設定した。	共同主催国際会議の開催	回	—	7回	7回	7回 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。	日本学術会議主催公開講演会等の開催 ・公開講演会等の開催件数	回	—	実施	5回	4回 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。	学術団体をめぐる課題についての審議等		—	報告書の取りまとめ	シンポジウムの開催	報告書の取りまとめ 21年度	審議の結果等を外部に報告する(報告書等を作成)することを目標値として設定した。	地区会議の開催		—	実施	実施	実施 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。	地区会議公開講演会の開催 ・地区会議公開講演会の開催件数	回	—	実施	9回	7回 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。
達成目標	指標名	単位	基準値(年度)	実績値							目標値(年度)	達成目標・指標の設定根拠・考え方																																																																																					
				19年度	20年度	21年度																																																																																											
・科学に関する重要事項を審議し、その実現を図る。 ・科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させる。	専門的かつ信頼性のある見解の提示・助言等を通じた政府・関係機関との連携			—	実施	実施	実施 21年度	各期(3年間)の提言等の発出状況や委員会の例年の審議の状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																									
	各国アカデミーとの連携等 ・G8学術会議共同声明の発出	回	—	1回	1回	1回 21年度	これまでの発出状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																										
	各国アカデミーとの連携等 ・アジア学術会議の開催	回	—	1回	1回	1回 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																										
	各国アカデミーとの連携等 ・二国間学術交流		—	実施	実施	実施 21年度	これまでの交流状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																										
	国際学術団体等への貢献 ・ICSU(国際学術会議)、インターアカデミーパネル等への対応	回	—	2回	2回	2回 21年度	これまでの対応状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																										
	国際学術団体等への貢献 ・その他国際学術団体等への代表派遣等		—	実施	実施	実施 21年度	これまでの代表派遣等の状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																										
	共同主催国際会議の開催	回	—	7回	7回	7回 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																										
	日本学術会議主催公開講演会等の開催 ・公開講演会等の開催件数	回	—	実施	5回	4回 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																										
	学術団体をめぐる課題についての審議等		—	報告書の取りまとめ	シンポジウムの開催	報告書の取りまとめ 21年度	審議の結果等を外部に報告する(報告書等を作成)することを目標値として設定した。																																																																																										
	地区会議の開催		—	実施	実施	実施 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																										
	地区会議公開講演会の開催 ・地区会議公開講演会の開催件数	回	—	実施	9回	7回 21年度	これまでの開催状況を勘案して目標値を設定した。																																																																																										
	<p>関係する施政方針演説等内閣の重要政策(主なもの)</p>	<p>施政方針演説等</p>	<p>年月日</p>	<p>記載事項(抜粋)</p>																																																																																													